

お互いさまと思える茨木に！
生活者の視点を政治に！



あびこ浩子連絡先

電話・FAX 072(655)8460(留守時はメッセージをお願いいたします。)
Email: contact@hiroko-abiko.jp
茨木市紫明園10-74-405
<https://hiroko-abiko.jp>

web

LINE

facebook

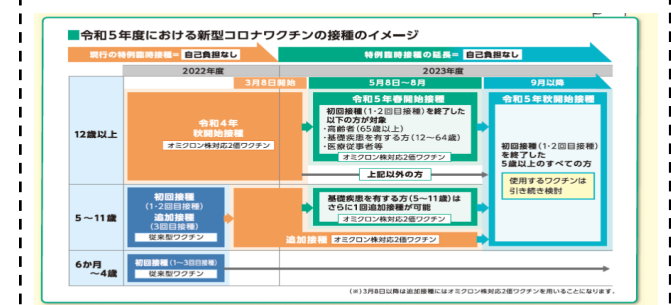
twitter

新型コロナワクチンの
4月以降の対応について

令和5年3月7日に開催された、国の厚生科学審議会・ワクチン分科会において、**初回(1・2回目)接種が完了した、65歳以上の方や基礎疾患を有する方等を対象**とした追加接種(令和5年春開始接種)を**5月8日(月曜日)**から実施することが決定しました。なお、上記の対象者以外の方の追加接種は、令和5年秋開始接種として、9月からの開始に向けて、国において実施方法等が議論されています。

＜接種期間＞
令和5年5月8日～8月31日 一人1回接種

＜対象者＞
65歳以上高齢者、5歳以上64歳以下の基礎疾患患者、医療従事者・高齢者施設等従事者



毎週火曜日・木曜日JR茨木駅西口下、水曜城南茨木駅東口、金曜日阪急茨木市駅東口南側でご挨拶と「週刊通信」を配布させていただいていますが、今年度は副議長職との兼ね合いでなかなかいけない状況です。お会い出来たらお声をかけていただけたら嬉しいです！「あびこ浩子ゆめ・みらい通信」は定例議会報告版と週刊通信版があります。過去のものはHPで読むことができます。是非ご覧ください。議会報告版を郵送で購読いただける方は電話・FAX・メールでお知らせ頂けましたら、お送りいたします(無料)。ご連絡お待ちしております。

阪急茨木市駅東口への病院誘致について
阪急茨木北口・双葉町駐車場の自動車受け入れ停止

阪急茨木市駅東口側の病院建設予定地である双葉町駐車場で病院建設が決定し、令和4年10月17日付けで「学校法人大阪医科薬科大学」と決定しました。
＜今後のスケジュール＞

令和4年12月頃	覚書の締結
令和5年6月頃	基本協定書の締結
令和5年7月以降	誘致病院に係る基本・実施設計、関係機関との事前協議等
令和7年10月頃	誘致病院候補地の埋蔵文化財等の調査
令和8年度以降	病院建設に着手
令和11年度中	病院開院

※社会情勢や進捗状況により、スケジュールが前後する可能性がある。

これに伴い、阪急茨木北口駐車場(6月30日)及び双葉町駐車場(5月8日)の自動車受け入れ廃止されます。また、阪急北口駐車場が改修工事のため閉鎖されます(令和5年7月1日～令和7年3月31日)



《議会報告版》発行日：2023年5月
編集・発行／あびこ浩子
茨木市議会議員(無所属)

あびこ浩子
ゆめ・みらい通信

連絡先：(あびこ浩子事務所) 茨木市紫明園10-74-405
Facebook：あびこ浩子 | WEBサイト：<https://hiroko-abiko.jp>

2023年3月議会が終わりました。
みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。

3月議会が終わりました。令和5年度予算は一般会計1112億円、特別会計が599億5105万円、下水道会計105億728万円、水道会計96億6258万円の総額1931億2091万円で、成立いたしました。11月に文化子育て複合施設「おにクル」が開館します。それを見据えた取り組みが実施されます。市長の施政方針には「共創」という言葉がたくさん出てきました。「おにクル」を契機として「にぎわいと交流を深め、豊かさと幸せの実現を目指す」とのことです。過去3年間新型コロナ感染症により学校行事やイベントなど自粛されることが多かったですが、今年は直接皆様の笑顔に会えますようにと願っております。

学習会「おにクル」を知ろう！

11月に開館する「茨木市文化・子育て複合施設『おにクル』」完成間近です！どのようなものができるのか、担当者から説明いただき、活用について一緒に考えましょう！

日時：2023年5月20日(土)14:00～ 場所：穂積コミュニティセンター

予約はいりません。無料です。

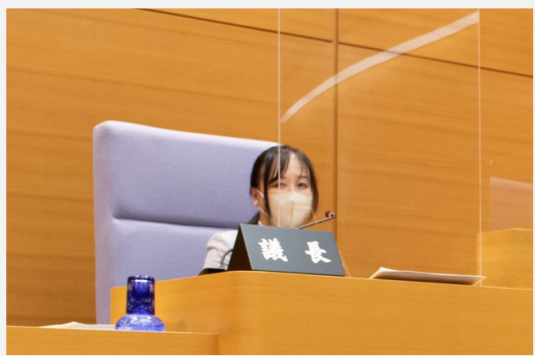
※あびこ浩子市政報告会の中で開催します

「あびこ浩子市政報告会」のご案内			
第1回	5月15日(月) 19:00	沢良宜いのち愛ゆめセンター	
第2回	5月16日(火) 19:00	中津コミュニティセンター	
第3回	5月17日(水) 19:00	総持寺ミカン屋	
第4回	5月18日(木) 19:00	東コミュニティセンター	
第5回	5月20日(土) 10:00	彩都西コミュニティセンター	
第6回	5月20日(土) 14:00	穂積コミュニティセンター<学習会>	
第7回	5月21日(日) 10:00	耳原自治会館	

- 【あびこ浩子プロフィール】
- ◆ 玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了／大学時代銭原キャンプ場でカウンセラーとして活動
 - ◆ 1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人ChachaHouse代表理事／2006穂積小学校区青少年健全育成運動協議会会長／2006NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事／2011穂積地区自主防災会会長／2012穂積地区福祉委員会副委員長／2020穂積地区福祉委員会顧問
 - ◆ 2008・4茨木市議会議員補欠選挙で初当選／2009・1選挙2期目当選／2013・1選挙3期目当選／2017・1選挙4期目当選／2021・1選挙5期目当選
 - ◆ 穂積地区在住

2023年3月定例議会報告

ネット中継・過去の動画も茨木市HP(茨木市議会)でご覧いただけます。



今年度は茨木市議会副議長、総務常任委員会、都市計画審議会の委員として活動しています。本会議時に議長の代わりに議長席に座っているときがあります。

新たな特別支援学級及び通級による指導

の運用が4月からスタート

令和4年4月27日付の文部科学省の通知「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」において「特別支援学級に在籍している児童生徒については、原則として週の授業時数の半分以上を目安として 特別支援学級において児童生徒の一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた授業を行うこと」という表現が入りました。「半分以上」つまり週15時間以上は支援学級で授業を受けるようにという通知でした。これまで、大阪では「インクルーシブ教育」が進められてきました。支援学級で授業を受けるだけでなく、指導くださる先生についていただき、通常教室と一緒に授業を受けるスタイルが進められてきました。今回の文部科学省の通知により、令和5年度以降の支援学級に在籍している子どもたちの学びの形はどのようなものかという不安のお声をたくさんお聞きし、昨年の9月議会、12月議会とこの件について質疑を重ねてきました。

大阪府教育庁の考え方として、「国が支援学級と通級による指導の運用について具体的な時間数の目安を示したことを受け止める必要がある。一方で現時点では通級指導教室の担当教員の配置が完全には保障されていないので、学びの場の変更を検討する際の経過措置が必要である」としていました。大阪府下の各市の取り組み状況も違っており、茨木市がどのように取り組むのかが問われました。

茨木市の考え方としても「大阪府教育庁の考え方を踏まえ、これまで同様に児童生徒の実態把握に基づいた特別の教育課程を編成し、支援学級における特別の指導と通常の学級での指導の充実に取り組んでいく」との見解でした。これまでの支援の在り方について方針を転換するのではなく、個別の課題に沿って支援体制を構築していくことでした。

一番の懸念は、通級教室の教員の配置がどのようになるのかということでした。支援級では8人に一人、通級では13人に一人の先生が配置されなければなりません。それを国、大阪府が100%配置する予算をつけてくれるのかどうかという点でした。

子どもの義務教育に必要な予算をかけない国に将来はないのではないかと私は思います。もし国や府が予算を認めなかった場合に備えて12月議会で、市の予算で教員配置を行うよう要望しました。そして3月議会の予算には市の予算で先生を配置する予算が提案され、また、合理的配慮のためのスクールサポーターや介助員の増員予算も組み込まれていました。茨木市のこの取り組み姿勢にはとても嬉しく思いました。

4月を迎えるにあたり、通級教室の教員配置は要望通り100%かなえられることになったと連絡を受けました。国、府が100%予算を認めて配置されました。何よりとホッといたしました。

4月から新しい体制が始まります。これまでと変わらず、配慮の必要な子どもにきちんと支援が届きますように思います。スタートしてから様々なご意見が出てくると思いますので、それぞれについて子どもにとって良い支援が実施されることを期待しています。先生方の校内研修も複数回実施されるとのことです。

＜支援学級数・通級指導教室数＞

		令和4年	令和5年
支援学級数	小学校	203	169
	中学校	62	54
通級教室数	小学校	13	24
	中学校	4	11

重層的支援体制整備事業について

モデル事業がスタート・中央保健福祉センタオープン

これまで令和5年度実施と議会答弁されてきた国の「重層的体制整備事業」の実施が見送られています。非常に残念です。しかし令和5年度は「プレ事業」を実施し令和6年度の本格実施に備えるとしています。

私はこれまで、本市において取り組みを進めて欲しいと何度も議会でこの課題について質疑をしてきました。国の重層的支援体制整備事業は本市の地域福祉の理念と合致しており、それを体現するセンターとして地区保健福祉センターを開設するとの説明を受けてきました。これが受託されれば5050万円の国補助がいただけます。複合的な課題に対応できる地域福祉の向上を目指す取組をこの予算で進めることができます。それを期待しています。なぜ進まないのかと聞くと、この事業への特に専門職の理解が進まないというお話

茨木市待機児童解消保育所等整備計画

の見直し

待機児童の問題は国を挙げて対策に取り組んできた経緯もあり、本市はかつては100人以上の待機児童がいる都市の中に名前を連ねていましたが、この数年は4月1日時点は待機児童ゼロという状況になっております。実際には「隠れ待機児童」と言われる、カウントされない子どもの数が隠れており、依然として保育所の入所課題は大きいものです。

保育需要は増加しています。特に大規模マンション開発による東ブロックの保育需要が伸びています。きょうだいで別の園に入所されていて送迎が大変というお声もあります。国を挙げて「異

がありました。不思議なことです。重層的支援体制整備事業は、これまで本市が進めてきた地域福祉の取り組みそのものであり、あとは新規事業を計画実施すればできるところまできています。本市は数年前まで国の中で先を走っていたのに、いまや遅れをとっている状況です。周辺他市がどんどん取り組みを始めています。予算に上がっているモデル事業ですが、新規事業についての予算とはなっていません。地域のみなさまのお力をお借りする一番肝心な「地域づくり」「参加支援」をどう進めるかがこの夏までの大きな課題です。

4月から4か所目となる中央保健福祉センターがオープンしています。しかしながら保健福祉センターの事業検証のための明確な指標が示されないままです。市民に必要とされるセンターになることを切に願います。

次元の子育て支援策」ということを打ち出している。ので、保育所の課題、保育士確保の課題、さらには、様々な働き方（とくに自営業や個人事業主の方など）に対応できる保育の確保を考えていかねばならないと思います。子育てによって働き方を制限されたり、そのことが仕事をするうえで不利になったり。社会の仕組みや意識が変わることで子育てしやすい社会になり、少子化がストップする方向に変わるかもしれません。

計画の見直し	令和4年度整備 ＜令和5年度～＞	令和5年度整備 ＜令和6年度～＞	令和6年度整備 ＜令和7年度～＞
令和元年11月時点	165人分	210人分	0人分
令和5年1月時点	201人分	144人分	30人分

副議長に就任しました

2月議会で、役員選出があり、私は副議長となりました。議長は下野議員です。

同期の2人で、この1年頑張っまいます。本会議中に議長と交代して、議長席についていることがあります。（とても緊張しています）下野議員は議長2回目ですので、いろいろと教えていただきながら、重い責任を果たしていきます。コロナ禍でストップしていた地域イベントも再開されています。下野議長と一緒に地域イベントに出席させていただいております。

